



ビジターセンターからの おしらせ

【地域連携】

マナーアップキャンペーンに参加

- ①河原での「直火・テント等の設営は禁止」
 - ②野生生物に悪影響となる「ゴミの持ち帰り」
 - ③近隣住民の迷惑になる「大きな音を出さない」
- などを利用者に周知する声掛け運動に参加しました。
気持ちよく河原を使ってもらうことへの理解を求めました。



利用者への声掛け



ゴミ回収

【館内展示】

環境省アクティブレンジャー写真展

11月27日～12月10日、環境省のアクティブレンジャーが関東周辺の国立公園で撮影した写真の展示会が行われました。奥多摩が国立公園（秩父多摩甲斐国立公園）内にあることを知らない方も多く、国立公園を知ってもらう良い機会となりました。



写真を撮ったレンジャー



写真を見る来館者



ちちたまかい ニュース

「ここからが国立公園」秩父多摩甲斐国立公園の看板が出来ました！

2024年9月、秩父多摩甲斐国立公園の境界である あきる野市戸倉（十里木交差点付近）の秋川溪谷沿いに国立公園の入口であることを示す標識が新設されました。

東京都の本土部にも国立公園があること、奥多摩にその入口があり、ここを過ぎれば国立公園内に入ったことなど、普段何気なく通り過ぎてしまう場所をメモリアルな場所とすべく、地元の方々の協力のもと設置が実現しました。

記念写真スポットなど、人々が集う場所になれば一層国立公園の認知度向上の一役を担うことになるでしょう。



写真提供：環境省奥多摩自然保護官事務所アクティブ・レンジャー



奥多摩ビジターセンター
〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 171-1
TEL: 0428-83-2037
URL: <https://www.ces-net.jp/okutamavc/>
指定管理者：(株)自然教育研究センター（略称 CES）

2月16日発行



X



Follow me!



Facebook



You Tube



第13号 奥多摩ビジターセンター通信

季刊

おくたん

2025

冬

氷川溪谷の生きもの 2020-2023 年度の定点調査 結果発表！



おくたんでは、奥多摩を探求し、奥多摩を堪能していただくための情報をお届けします。

氷川溪谷の生きもの・定点調査結果

✓ 定点調査ってなに？

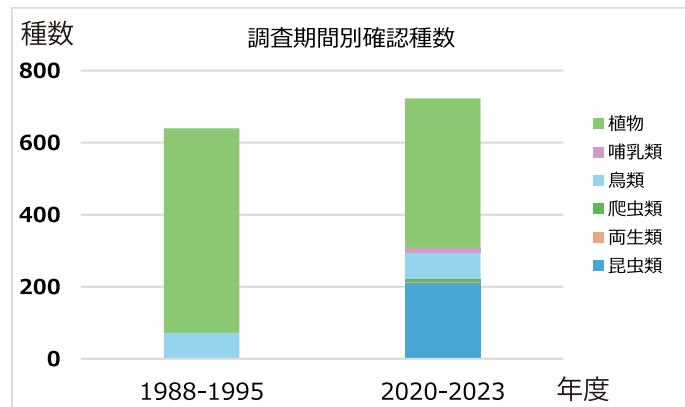
同じ場所を四季を通じて調べ、生きものの種類や生息状況を把握することです。ビジターセンターでは自然を保全することを目的に氷川溪谷を調べています。

✓ 今回は 2020-2023 年度の 4 年間に収集した氷川溪谷の生きもの最新データの概要報告です。

確認種数 *1 の調査期間別推移

年度	1988-1995	2020-2023
昆虫類	未調査	211
両生類	未調査	4
爬虫類	未調査	7
鳥類	72	73
哺乳類	未調査	12
植物	568	415
計	640	722

(単位：種)



調査年度別の確認種類数 (表・グラフ) を示します。2020-2023 年度 (今回) に確認した生きものは 722 種となりました。調査の期間や対象に違いがあり一概に比較はできませんが、1988-1995 年度 (前回) の 640 種を上回っています。しかし重要なのはその中身です。前回確認したが今回は未確認である種類などの検証が大切です。今はそのために調査を続けていく段階にあります。

*1) 2020-2023 年度の確認種数には 1988-1995 年度に確認している種も含む。

植物 415 種



前回に比べて 150 種位少ない。今回はシラカシなど樹木種をカウントしていないこともあるけれど、もっと時間をかけた観察と確認する回数を増やすことが必要だと思う。アズマイチゲ、スミレ類など花の季節が限定されているものにも注意を払って確認していきたいところ。



アズマイチゲ

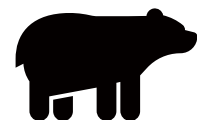


スミレ類



哺乳類 12 種

- ・アナグマ
- ・キツネ
- ・ニホンザル
- ・ニホンリス
- ・イノシシ
- ・タヌキ
- ・ニホンジカ
- ・ムササビ
- ・カモシカ
- ・テン
- ・ニホンノウサギ
- ・ヒミズ



ツキノワグマ

注目したい種はニホンリス。なかなか見れなくて多くは痕跡としての確認だけど、今でもいることがわかった。

哺乳類の多くを占めるネズミ、コウモリ類は専用の調査をしないと発見が難しい、だから音声や捕獲など、いまやっている目視調査以外の調査法が必要。

※地域関係者が設置しているセンサーカメラにはツキノワグマも映されている。

両生類 4 種

- ・アズマヒキガエル
- ・カジカガエル
- ・モリアオガエル
- ・ヤマアカガエル



注目したい種はヤマアカガエル。森林伐採や、それに伴う林道開発、休耕田の増加などの理由で数を減らしている。*2



ヤマアカガエル

*2) 福山欣司・草野保 (2024) 6. 両生類 東京都レッドデータブック 2023 p. 523. 東京都環境局, 東京

爬虫類 7 種

- ・アオダイショウ
- ・クサガメ
- ・タチホヘビ
- ・ニホンカナヘビ
- ・マムシ
- ・ヒガシニホントカゲ
- ・ヤマカガシ



注目したい種はマムシ。森林の減少などから生息数が減少、確認できたヘビの中で唯一レッドデータランク「CR」(いちばん早くなくなる危険性が極めて高い)となっている。生息にはエサとなるカエルやトカゲなど小動物の豊富さが必要で、氷川溪谷の環境の良さを物語ります。



マムシ

昆虫類 211 種



調査の継続で氷川溪谷の自然を良く反映した昆虫類を確認することが出来初めている。それらののは以下の通り。

- ・清流でしか生きられない大型の水生昆虫、ムラサキトビケラやホタルの仲間
- ・大木が無いと生きられないヒゲナガカミキリやウバタマムシ
- ・アカマツが好きなハルゼミ
- ・温暖化で分布を北に広げているナガサキアゲハ、ツマグロヒョウモン、アカボシゴマダラ、クロコノマチョウやミノオマイマイ

ムラサキトビケラ



ヒゲナガカミキリ (左) とウバタマムシ (右) の羽化跡



ウバタマムシ



ツマグロヒョウモン



鳥類 73 種



2022 年からリュウキュウサンショウクイが定期的に確認されるようになった。もともと沖縄や九州南部に生息していたが、近年は分布が広がっている。都内生息数は 60 羽程度とされるクマタカ、ミゾゴイも確認されている。



上空高く旋回するクマタカ

定点調査で①いなくなったと思った種がまだいた (ハルゼミ)、②以前はいなかった種がいた (リュウキュウサンショウクイ)、③以前はいたが見つからない種がある (オニユリやキンラン他) ことが分かりました。これらはとても大切なデータです。各地でレッドリストといって貴重な野生生物の衰退ぶりを可視化しています。今まで普通に見られた生きものがふと気づくといなくなっていた、と知らないよう調査は今後も続きます。生きものので気になったらビジターセンターをチェック！